

令和2年度決算の審査

令和3年9月から11月にかけて行われた決算特別委員会の昨年度決算についての審査内容の一部です。昨年度の予算の執行が適正だったか、多くの質疑が交わされました。

総務分科会

ふるさと納税の歳入を得るための必要経費と今後の取組および展望は？

問 令和2年度ふるさと納税の歳入は、2億6,125万円であったが、それを得るための経費はどれくらいだったのか。

また、ふるさと納税は自主財源の大きな柱であり、寄附が増額するための今後の取組と展望は。



答 必要経費として、返礼品の購入に寄附額の約30%、サイトの手数料や返礼品の送料として、1億642万円を支出している。一方、鯖江市民による他市町への寄附により、市民税約1,685万円が減収となっているが、収支としては約1億4千万円のプラスとなっている。今後の取組と展望として、返礼品制度の活用は、市内で生産される製品や各種サービス等の新たな出口開拓につながることから、返礼品のさらなる魅力向上や新規返礼品の開拓に努めたい。

産業建設分科会

菜花米の今後は？

問 作付開始から10年が過ぎた。しかし、菜花米の作付面積は、目標としていた40haに届かず、平成30年の豪雪以降、菜花米の作付面積は減少を続けている。今後の菜花米のブランド化戦略をどのように考えているのか。



菜花米のブランド化戦略は

答 市独自のさばえ菜花を水田にすき込み、緑肥とすることにより環境に配慮した体に優しい「さばえ菜花米」を、「さばえ三大花物語」の一つとして、ストーリー性を生かした情報発信の強化に努め、ブランド化を進めていきたい。また、新幹線開業を好機と捉え、「さばえ菜花」「さばえ菜花米」を今まで以上にPRし、販路拡大に取り組む中で、「高くても選ばれるお米」を目指し必要とされる支援を行う。

教育民生分科会

本市の不登校対策の方針は？

問 不登校児童生徒数は8年連続で増加し、過去最多となった。不登校の解決には、子どもの気持ちに向き合い、寄り添った対応・支援が重要と思われるが、本市の不登校対策における方針は。



不登校の要因・背景は複雑・多様化している。

答 「不登校は、どの子どもにも起こりうる」という基本認識の下、次の3段階に分けた対策を講じている。

【1】未然防止…子どもたちの自己肯定感の向上や仲間同士が支え合える関係づくりに努める。

【2】早期対応…学校では教職員が「年間累計5日欠席」の予兆のサインを共有し、一人一人に寄り添った支援を行うため専門家の人的充実を図る。

【3】自立支援…一人一人の将来を見据えた支援が行えるよう、核となるチャイルドセンターの機能強化を図るなどし、きめ細やかな対応に努める。